

ケースメソッドを応用した 災害時の栄養・食生活支援活動ケースの演習について

武見ゆかり(女子栄養大学栄養学部)

1. ケースメソッドという学修法の特徴

ケースメソッドとは、高度な実務家養成を担う大学院で用いられる学問教育のための教授法（学修法）の1つである。米国ハーバード大学のロースクール（法科大学院）で使われ始め、その後、1990年代前半からビジネススクール（経営大学院）、ケネディスクール（公共政策大学院）等で開発され、発展してきた学修法である。

現在、国内のビジネススクール（経営大学院）では一般的に使われており、私たちも、以前、国立保健医療科学院に公衆栄養コースがあった頃（2001～2005年頃）に、行政栄養士を対象に活用していたことがある。

ケースメソッドによる学修の特徴は、教材であるケース（事例）をもとに、インストラクター（講師）と参加者が討論を進めながら、考えを整理し、洗練させ、結論へと導く点にある。ケースの当事者の立場に立って課題を分析し（「自分なら・・・と考える」）、置かれた状況の中で、解決策の選択肢を考え、どれが最適かの意思決定を速やかに行う。

最適な解は1つとは限らない。状況が違えば、関わる人の個性が違えば、季節が違えば、最適解は異なる可能性がある。置かれた状況を疑似体験する中で、持てる知識やスキルをフルに活用して最適解を導き出すためのトレーニングである。したがって、ケースメソッド用のケースには、現実の複雑性を捨象しない、詳細な情報、データ、写真などが適切に盛り込まれる必要がある。

なお、ケースメソッドは討論によって進められるが、ディベートとは異なり、賛成と反対、優位の論と劣位の論、勝者と敗者等を生じさせることはない。

2. ケースメソッドを応用した演習のねらい

（1）状況に応じた問題解決能力をつける

ケースメソッドを用いる目的は、ある特定の状況下で、課題を明確にし、関連した知識を使って複数の解決策を考え、その中で最適解を判断する力をつけることにある。実際の災害時の問題解決には多様な条件がかかわり、また状況は刻々と変化する。それらの状況を分析し、この状況下ではどのような解決手段があり、どの手段を用いることが最も適切かを判断する、つまり意思決定する能力を鍛えるためである。

また、適切な判断や意思決定には、さらにどのような情報や知識が必要

かを考える力を鍛えることにもつながる。

(2) 批判的思考とコミュニケーション能力を高める

討論により進めるので、自分の考えや判断の根拠を短い時間で他者に説明するコミュニケーション力を鍛えることにもつながる。また、他者との意見交換を通じて新たな意思決定を速やかに行うための批判的思考の修得も期待できる。

3. ケースメソッドを応用した演習の進め方

(1) ケースの準備

ケースメソッドでは、前述した通り、教材となるケースが重要である。事実に基づき、さらに意思決定するための詳細な情報が記載されていることが必要である。

(2) ティーチングノートの準備

インストラクター（講師）は、あらかじめティーチングノートを作成する。ティーチングノートには、ケースの概要や学修のねらい、学修対象、学修に必要な予備知識、ケースに存在する課題とその解決策、それらを導くための学修計画（手順）を記載する。インストラクター（講師）は、演習のねらいにあわせ、学修計画にそって、適切な問いをあらかじめ考えておく必要がある。

以下にティーチングノートの例を示す。これは1つの例であり、参加者の学修目的にあわせて、ティーチングノートを作成する。

ティーチングノート（例）

1. 演習目的

自然災害などの緊急時の危機管理の際、行政栄養士がどのような対応をすべきか、その判断を迅速に行う能力形成を目的に、実際の災害時における栄養・食生活支援活動ケースを使用して演習を行う。

2. 対象者

地方自治体に勤務する行政管理栄養士・栄養士
災害時の栄養・食生活支援活動に従事するその他専門職（保健師等）

3. 一般目標

実際の災害時における栄養・食生活支援活動ケースをもとに、事象の差異を捉え、状況分析し、問題解決に関わる判断能力や意思決定能力を形成する。

4. 到達目標

(1) ケースで想定する状況を読み取り、そこで取り組むべき問題や課題を考えることができる。

(2) 限られた時間中にディスカッションから得られた情報を基に、新たな対応策への意志決定ができる。

(3) より適切な意思決定には、さらにどのような情報が必要かを判断できる。

(4) 特定の状況下で想定できる問題や課題、解決方法などを、議論を通じて体系的に貯めることができる。

5 . 予備知識

自治体における健康危機管理業務と、その根拠（一般論）

災害時の栄養・食生活支援活動に関する知識

6 . 検討課題

(1) ケースの主人公（行政管理栄養士）の行動の良かった点は何か？

(2) めざす方向に向かって、ケースの課題は何か？

(3) 課題を解決するために、誰が何をしたらよいと考えるか？

7 . 演習計画の例（ 分、 名）

P に記載

8 . ケースの概要

別添一覧表のとおり

(3) インストラクター（講師）の準備

インストラクター（講師）は、以下の準備をする。

- ・ ケースを熟読し、課題を整理しておく。
- ・ どのように討論を進めたいのか、ティーチングノートをもとに方向性を描く。
- ・ 参加者の反応を予測する。

(4) 参加者の準備

参加者は、以下の準備をする。

- ・ 個人でケースを熟読する。
ケースの論点（学べること）は何かを考え、その論点にそって情報を収集・分析、課題を整理し、その解決策を考える（事前に講師から論点を示される場合もある）
- ・ ケースの当事者が自分だったらどうするか？ それはなぜか？を考える。

【論点の例】

誰が意思決定者か？

何のために、誰が、どのような意思決定をしなくてはならなかったのか？

他の重要な登場人物は誰か？

どのような制約条件があるか。変えられることと変えられないことの見極め。

意思決定者はどのような行動をとることができたか？それはどのような結果をもたらしただろうか？

(5) 討論（ディスカッション）

インストラクター（講師）は、参加者の発言をリードするために、ティーチングノートをもとに、参加者が考えるための適切な問いを準備する。また、誰もが主体的に参加しやすく、意見が言いやすいように、どんな意見でも受け入れられること、非難されないことを説明する。ただし、あくまでケースに描かれた状況下で考えることの必要性も説明する。

(6) 参加者へ印象づける

インストラクター（講師）は、討論の最後に、参加者に印象づけを行う。以下に例を示す。

- ・ 討論した結果のまとめ
- ・ 意思決定や行動をする前に解決しておかなくてはならないことのまとめ
- ・ 新しい解決策や代替案についてのまとめ
- ・ ケースから何を学んだかのまとめ

(7) 準備するもの

ホワイトボード、模造紙、ふせん紙、ペン 等

4. 演習計画の例

(1) クラス 20 名、180 分、ケース 2 題（保健所管理栄養士の活動ケース、本庁管理栄養士の活動ケース）

対象：県及び政令市の管理栄養士

参加者への動機づけ（講師）20 分

ケースメソッドとは、ねらい等について説明

クラスでの討論（講師と参加者の討論）50 分×2

- ・ ケースの主人公の感銘を受けたところ（よかったところ）は何か？
- ・ 主人公の行動（業務）は何か？ 業務を整理し、項目立てにして記載
- ・ 主人公の行動について、もっとこうすればよかったのではないかと思うところは何か？

ケース作成者から、参加者の意見に対する回答や感想を述べる。10 分×2

参加者への印象づけ（講師）20 分×2

- ・ 討論した結果のまとめ
- ・ 参加者自身が何を学んだかのまとめ

(2) クラス 40 名、180 分、ケース 2 題（保健所管理栄養士の活動ケース、市町村管理栄養士の活動ケース）

対象：県及び政令市、市町村管理栄養士

ケース 1（保健所管理栄養士の活動ケース）

参加者への動機づけ（講師）20 分

ケースメソッドとは、ねらい等について説明

クラスでの討論（講師と参加者の討論）45 分

- ・ ケースの主人公の行動のよかったところは何か？
- ・ 主人公の行動について、もっとこうすればよかったのではないかと
思うところは何か？

ケース作成者から、参加者の意見に対する回答や感想を述べる。5 分

参加者への印象づけ（講師）10 分

- ・ 討論した結果のまとめ

ケース 2（市町村管理栄養士の活動ケース）

クラスでの討論（講師と参加者の討論）45 分

- ・ ケースの主人公の行動のよかったところは何か？
- ・ 主人公の行動について、もっとこうすればよかったのではないかと
思うところは何か？

少数での討論と発表（参加者同士、3 名程度）15 分

- ・ 周囲からおきてくる混沌とした状況を整理し、打合せの時間などを減らし、本来やるべき時間をまわすにはどうしたらよいか？
- ・ 何を支援してもらいたいかを明確にするにはどうしたらよいか？

ロールプレイ（ケース会議）と意見交換 20 分

被災町保健師、管理栄養士、管轄保健所管理栄養士、応援管理栄養士（県内）で今後の支援について会議を行った場面をロールプレイで再現し、見学者からもっとこうすればよかったと思う点について意見交換を行った。

ケース作成者から、参加者の意見に対する回答や感想を述べる。5 分

参加者への印象づけ（講師）15 分

- ・ 討論した結果のまとめ
- ・ 意思決定や行動をする前に解決しておかなくてはならないことのまとめ

(3) クラス 100 名、150 分、ケース 2 題 (保健所管理栄養士の活動ケース、市町村管理栄養士の活動ケース)

対象 : 県及び政令市、市町村の管理栄養士、栄養士、保健師

参加者への動機づけ (講師) 15 分

ケースメソッドとは、ねらい等について説明

小グループでアイスブレイク (自己紹介) 10 分

小グループ (10 名以下) による討論 25 分×2

- ・ ケースの主人公 (行政管理栄養士) の行動の良かった点は何か？

- ・ ケースの課題は何か？

討論結果の発表 10 分×2

全体討論 (講師と参加者) 20 分×2

- ・ 課題を解決するために、誰が何をしたらよいと考えるか？

参加者への印象づけ (講師) 15 分

- ・ 討論した結果のまとめ

5 . 演習教材 (ケース) の使用について

ケースメソッドは、1 回だけ実施しても目的を達成することは困難である。複数のケースを使って、さまざまな機会に演習を実施していくことで効果が期待できる。本演習教材 (ケース) を使用する場合は、別紙利用申込書を記載し、全国保健所管理栄養士会事務局あてに送付すること。

6 . 引用・参考文献

1) バーンズ、LB、クリステンセン、CR、ハンセン、AJ : ケースメソッド実践原理 - ディスカッション・リーダーシップの本質、高木晴夫訳、ダイヤモンド社、1997

2) Lynn、LE.: Teaching & Learning with cases-a guidebook、Chatham House Publishers、1999